

水島 メモリーズ

亀島山地下工場編

公園の下に眠る秘密工場



亀島山の中腹に稲荷社が見える 1971(昭和46)年3月15日
安藤弘志氏撮影(倉敷市歴史資料整備室蔵)

水島にある亀島山(花と緑の丘公園)は、地域では「お花見」や「水島コンビナート夜景の撮影」の場所というイメージでしょう。しかし実は、その下に「地下工場」があるのです。現在は稼働していませんが、アジア太平洋戦争中につくられた秘密工場で、県内最大級の戦争遺跡です。

亀島山地下工場は、一般公開はされていません。しかし、地域の有志が窓口になり、平和学習の場として活用されています。

岡山県内最大級の戦争遺跡

目次

岡山県内最大級の戦争遺跡	p3
軍需工業の秘密工場として	p6
保存と活用に向けて	p10
地域カフェとみずしま財団について	p14



水島勤労福祉センターの隣に建てられた亀島山地下工場の碑
(写真：山口百香)



亀島橋から 1961(昭和36)年6月25日 安藤弘志氏撮影(倉敷市歴史資料整備室蔵)

真つ暗な空間、剥き出しの岩肌、全長約2kmもあるトンネル。亀島山に降り注いだ雨が半年後にトンネルに染み出してくるといい、ときには膝丈ほど水が溜まることもあります。このような陰鬱な空間で、どうやって精密な軍用機の部品をつくっていたのでしょうか。働いていたのは若い工員や動員された学徒でした。プロ野球選手だった星野仙一氏は水島出身のスターですが、彼の父親は若い工員を育てる青年学校の先生だったそうです。

亀島山地下工場がなぜ水島にあるのでしょうか？ 明治末、大正期の河川改修で東高梁川が廃川となり、アジア太平洋戦争

が始まる頃、その廃川地に三菱重工業が名古屋から進出することが決まり、水島航空機製作所がつくられました。それにあわせて水島の市街地が急ごしらえでできたのです。

この航空機製作所の疎開工場が亀島山地下工場です。亀島山地下工場と水島のまちは深くつながっているのです。

亀島山周辺 1961(昭和36)年7月6日 安藤弘志氏撮影(倉敷市歴史資料整備室蔵)



軍需工業の秘密工場として

スタジオジブリ制作のアニメーション映画『風立ちぬ』（2013年）は、零式艦上戦闘機（零戦）の開発を描いています。が、舞台の一つが三菱重工業名古屋航空機製作所です。零戦と同じく、海軍の航空機として開発されたのが一式陸上攻撃機（一式陸攻）です。一式陸攻は零戦より大きく、日本海軍の主力攻撃機でした。

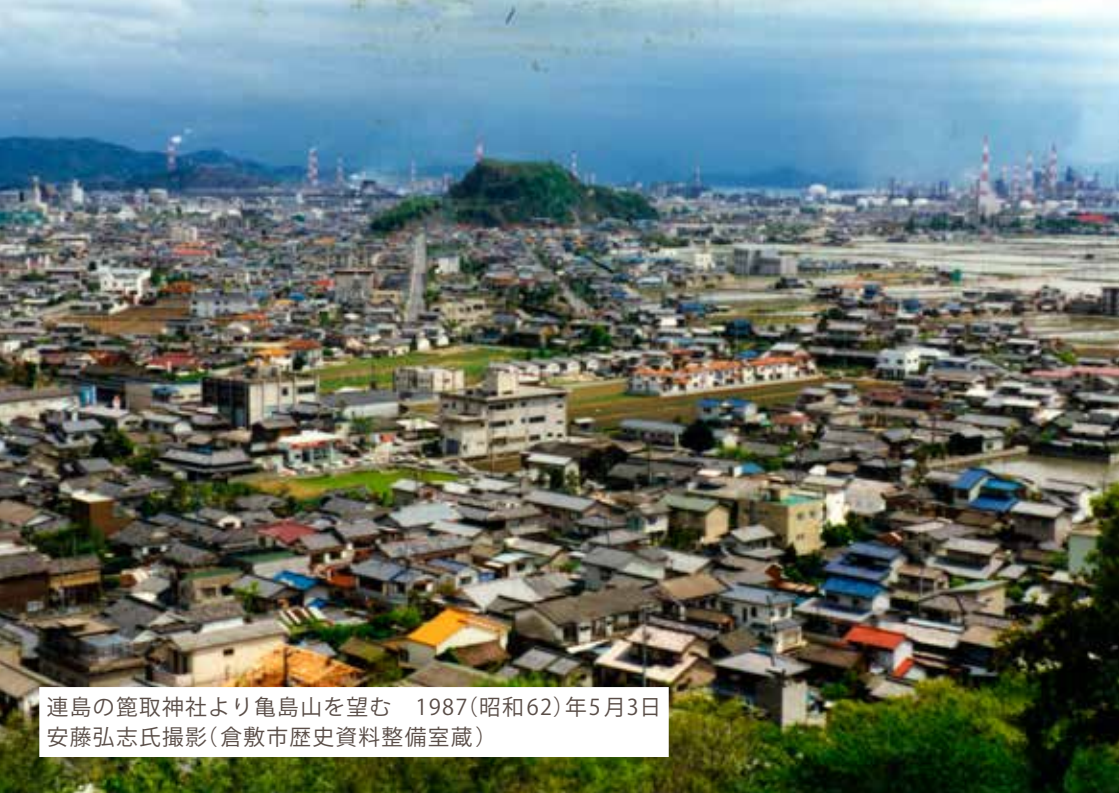
日中戦争が拡大し、米英との対立が強まる中、陸海軍は三菱重工業に数次の増産命令を出しました。しかし、名古屋航空機製作所がすでに手狭

だったこともあり、水島に工場が新設されることになりました（水島自動車製作所50年史編さん委員会編『水島自動車製作所50年史』三菱自動車工業株式会社乘用车生産本部水島自動車製作所、1993年、3頁）。

1941（昭和16）年4月、用地が水島に決まると、急ピッチで準備が進められました。青年学校が1942（昭和17）年4月に開校、工場は翌年4月から操業を開始しています（前掲『水島自動車製作所50年史』6頁、12頁）。そして4823戸の住宅が建設され、約4万人の人員を抱える

工場がまたたく間に出現したのです（同上、8頁、14頁）。ここで終戦までに一式陸攻513機、紫電改（戦闘機）9機がつくられました（亀島山地下工場を語りつぐ会編『ガイドブック 亀島山地下工場』亀島山地下工場を語りつぐ会、2013年、23頁）。

他の工場も軍需生産に傾斜していきました。かつて、倉敷駅前のアリオとアウトレットパークがある場所に倉敷紡績（現・クラボウ）の万寿工場が、倉敷アイビースクエアがある場所には本社工場がありました。両工場は、1942（昭和17）年末



連島の籠取神社より亀島山を望む 1987（昭和62）年5月3日
安藤弘志氏撮影（倉敷市歴史資料整備室蔵）



亀島ロータリーと100m道路 1962（昭和37）年7月
安藤弘志氏撮影（倉敷市歴史資料整備室蔵）



亀島山山頂 1962(昭和37)年7月8日 安藤弘志氏撮影(倉敷市歴史資料整備室蔵)



水島臨海工業地帯の工場用地埋め立て土砂のために削られた亀島山 1964(昭和39)年9月20日 安藤弘志氏撮影(倉敷市歴史資料整備室蔵)

の海軍航空本部および三菱重工業の要請を受け、航空機事業に転用されることになったのです(倉敷紡績株式会社社史編纂委員編『回顧六十五年』倉敷紡績株式会社、1953年、583頁)。そこでつくられた翼は、牛車で水島に運ばれていたそうです。昨年、101歳で亡くなった平良敏子氏は、沖繩の女子挺身隊の一員で、万寿工場で働いていました。そこで大原総一郎氏と出会ったことが、彼女が帰郷してから芭蕉布の復活に尽力するきっかけになったというのは、有名なエピソードの一つです。

亀島山地下工場がいつから

掘りはじめられたのか、正確にはわかりませんが、1944(昭和19)年の末頃からではないかといわれています。水島航空機製作所をつくるための埋め立てや、亀島山地下工場の掘削作業に多数の朝鮮人労働者が集められ、従事させられました。

1945(昭和20)年6月22日の水島空襲で、水島航空機製作所は壊滅的打撃を受けました。戦後は、爆撃を受けなかった施設を使って民需品の生産に転換し、オート三輪「みずしま号」を開発するにいたります(前掲『水島自動車製作所50年史』20頁、24・28頁)。

また、亀島山地下工場は民間人の倉庫となり、地域の子どもたちの度胸試しの場所にもなっていました。



未舗装の海岸通 1960(昭和35)年12月16日 安藤弘志氏撮影(倉敷市歴史資料整備室蔵)

保存と活用に向けて

「亀島山地下工場を「再発見」したのは1980年代後半の倉敷中央高校の社会問題研究部の活動でした。これは水島工業高校の取り組みともつながり、亀島山地下工場の過酷な労働の様子について、在日コリアンからの聞き取り調査が進められました。また韓国のマスコミにも働きかけ、1989年4月15日の『韓国日報』で活動が報じられると、韓国から手紙が届くなど、国際交流にもつながりました。1990年には、日韓の調査で遺族を探し

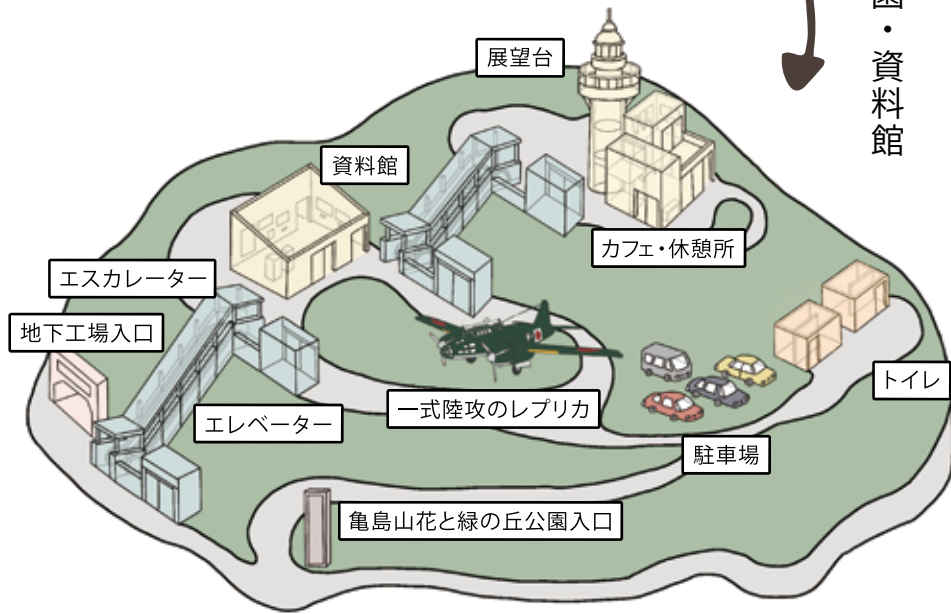
出し、身元不明の遺骨を返還する取り組みも行われました（亀島山地下工場を語りつぐ会編『掘りおこされる戦争の傷あと 亀島山地下工場』亀島山地下工場を語りつぐ会、1990年、33・34頁。前掲『ガイドブック 亀島山地下工場』32・33頁）。こうした高校生の活動は市民レベルの取り組みにつながります。「亀島山地下工場を語りつぐ会」が1988年に発足し、見学会や学習会を開くなどの活動を開始したのです。高校生や地域住民の運動の

結果、1996年3月に水島勤労福祉センターに隣接して「亀島山地下工場の碑」が設置されます。また、地下工場内部の実測調査も行われました。1998年に高校生の自主活動として簡易な調査がなされましたが、2008年には最新の機器を用いた本格的調査が実施され、高校生らの調査による略図がほぼ正確だったことがわかっていきます（亀島山地下工場を語りつぐ会編『水島のなりたちと亀島山地下工場』亀島山地下工場を語りつぐ会、

亀島山地下工場の公開と平和公園・資料館整備に向けたビジョン



みずしま地域カフェでは「亀島山地下工場をこんなふうに保存・活用したい」とさまざまな提案が出された



みずしま地域カフェで出された提案をもとに平和公園・資料館整備のイメージをイラストにしてみた（イラスト制作：澤江亜玖里）



右から、亀島山地下工場を保存する会の岡野さん、柴田さん、大野さん(写真：山口百香)



亀島山地下工場を語りつぐ会の吉田さん(左)、村田さん(右)(写真：山口百香)

水島は、公害と戦争、環境と平和を同時に学べる稀有な場所です。県外からも、修学旅行生が亀島山の見学に来てくれています。現在は受け入れ人数が限られています。亀島山地下工場が公開され、資料館などが整備されれば、内外から多くの人が訪れ学びの拠点と

2022年10月30日「時代を読む」と述べています。亀島山地下工場は、水島の開発の歴史をつたえる貴重な生きた証人です。この遺構が残されて公開にいたるには、市民の声が必要です。近年、全国各地で戦争遺跡が市民の声により保存整備され、公開されています。



亀島山地下工場入口(写真：山口百香)

なるポテンシャルを秘めています。「広島原爆ドーム、岡山の亀島山地下工場」と並び称せられるのも夢ではないかもしれません。

2010年、15・17頁。この「語りつぐ会」「水島を元気にする会」「水島の未来を考える会」がともに、2012年に「亀島山地下工場を保存する会」を設立し、亀島山の保存活用に向けた道すじを探っています。「保存する会」の大野治さんは「一式陸攻の復元をして、亀島山の中腹に資料館をつくり、そこに設置したい」といいます。また「語りつぐ会」の村田秀石さんは「亀島山の向かいにある水島勤労福祉センターの一部に、地下工場の展示をすることができないか」と提案します。どちらの案も、多くの人が亀島山について学べる施設が必要だ

ということを示しています。亀島山地下工場の保存活動に携わっている人たちに共通する願いは「公開」です。「一部でいいから安全確保をして、多くの人が地下工場に入って体感できるようにしてほしい」と願っているのです。亀島山地下工場を見学した思想家の内田樹氏は「暗く虚ろなトンネルは戦争の無意味さと非道を実感できる例外的な跡地である」と評し、この地下工場が保存され公開されることは「行政や地域社会の協力が必要な事業だが、実現すれば市民社会の成熟と文明の一つの里程碑になるだろう」(『東京新聞』



100m道路になる前の高砂町から亀島山を見る 1960(昭和35)年10月
安藤弘志氏撮影(倉敷市歴史資料整備室蔵)

表紙写真 : 亀島山地下工場内(写真: 山口百香)
裏表紙写真: 【上】 亀島山地下工場内から入口を望む
【下】 真っ暗な亀島山地下工場内
(写真: 山口百香)
文 : 林美帆(みずしま財団)、除本理史(大阪公立大学)
協力 : 亀島山地下工場を語りつくす会、亀島山地下工場を保存する会
デザイン : 山口百香 (Myu dear,)
発行日 : 2023年5月
発行 : 公益財団法人水島地域環境再生財団・みずしま資料交流館(あさがおギャラリー)
〒712-8033 岡山県倉敷市水島東栄町11-12 TEL : 086-440-0121

地球環境基金の助成を受けて作成しました



みずしま財団
Webサイト



地域カフェについて

戦争、地域開発と公害など「困難な過去」にも目を向けながら、水島の歴史を掘り起こすとともに、地域の新しい魅力を発信するための冊子です。みずしま財団が2021年度から取り組んでいる「みずしま地域カフェ」で得られた情報をもとに作成されています。地域カフェは地域の歴史について学び、将来のまちづくりの方向性などを語り合う場です。ぜひご参加ください。



みずしま財団について

みずしま財団は、正式名称を「公益財団法人水島地域環境再生財団」といい、2000年3月に、水島地域の環境再生・まちづくりの拠点として設立されました。
住民を主体に、行政・企業など水島地域の様々な関係者と専門家が協働する拠点として、よりよい生活環境を創造する活動を展開していくために、調査活動をはじめ、学びの場づくり、人とのつながりづくり、そして公害の経験の継承と公害患者支援などを行っています。2022年10月、ミニ資料館「みずしま資料交流館」を開設しました。

DATA





水島
メモリーズ